

図書館座席予約システム機能要件一覧

1. 基本条件

- (1) 利用者自らが、座席予約・利用・終了することが可能なシステムであること。
- (2) 貸出カード番号（バーコード方式）で利用認証を行い、座席管理ができること。
- (3) 図書館が、有効な利用者カード番号データをクラウドサーバにアップロードできるとともに、今後の増加を見込みライセンス数を考慮した領域を、クラウドサーバ上に確保すること。
- (4) アップロードされたデータの取り込みは閉館時間中に自動または手動で行えること。
- (5) 貸出カード番号の桁数チェックや数値チェックを行い、1件でもエラーがあった場合は、アップロード前の状態に戻すこと。
- (6) データの取り込み時に異常があった場合は、取り込み結果を表示する画面に異常を表示し、再ロードが可能な状態となること。
- (7) 職員がマスタメンテナンスやイレギュラー対応をする管理端末は、利用者が予約端末を利用していても予約状況の確認や予約・削除が可能なこと。
- (8) 座席利用状況の画面を更新する場合、各端末での表示は常に最新の予約状況に同期されるものとする。登録を行う場合、二重登録等にならないよう複数端末からの同時実行制御を行えるものであること。
- (9) 座席管理を行う範囲は、学習席3グループ計277席（160席、81席、36席）を想定しているが、今後座席の種類や、座席予約システムを導入する館が増えた場合等には、館ごと、座席種類ごとの運用時間、運用方法設定など、機能拡張にも対応可能なシステムであること。
- (10) 来館した利用者からの当日分座席予約と、利用者がインターネット経由で当日から未来日までの座席仮予約が可能なシステムであること。

2. 利用者の認証と制御

- (1) 貸出カード番号の有効・無効を確認し、無効の場合は警告画面を表示して利用できない制御を行うこと。
- (2) 同一利用者の同日内の最大利用回数、最大利用時間を制限することができること。最大値を超えた利用は、利用認証の際に判断し利用できない制御を行うこと。
- (3) 新たな座席コーナー種別の追加があった場合は、コーナーごとに回数や時間が制御できること。

3. 管理機能

- (1) 利用回数・利用時間の上限設定は、図書館職員により変更できること。
- (2) 利用回数・時間のカウントは、日をまたぐと自動でリセットされること。
- (3) 利用者は終了時間が来る前に予約端末にて退席処理が出来ること。
- (4) 利用回数は、途中退席しても1回とカウントすること。
- (5) コーナー追加の場合も、上記(1)から(4)の機能を持つこと。

4. 予約端末の機能と管理

- (1) 予約端末を5式設置し、利用者自身が貸出カード番号を使った利用申し込みができること。また、予約端末は、タッチパネル操作で操作できること。
- (2) 貸出カード番号の読み込みは、バーコードリーダー、キーボード入力、タッチパネル画面のソフトウェアキーボード対応などができること。
- (3) 予約端末にて貸出カード番号を入力した後に、現時点でのコーナー毎の利用制限(利用回数・時間等)内容が確認できること。
- (4) 予約端末にて、座席利用状況のタイムスケジュールが一覧表示できること。
- (5) 予約端末の待ち受け画面は、常に最新の予約状況に同期されること。
- (6) コーナー追加があった場合も、上記(5)の内容がコーナーごとに表示できること。
- (7) 図書館は、コーナーごとに、①あらかじめ設定した利用時間枠を指定②いつからどの座席を利用するかを自由に指定、の二つの利用方法を選択し設定できること。
- (8) 利用時間枠や、枠の間隔の時間設定は、コーナーごとに任意に設定できること。
- (9) いつから、どの座席を利用するかを自由に指定し座席を予約する場合は、使用可能な座席の使用可能な時間を表示し、利用者が利用したい座席を決定しやすくする機能を持つこと。
- (10) 座席を指定する場合は、利用者が選択する機能とともに、システムが自動設定する機能も持つこと。
- (11) 利用者が、予約端末で予約の削除ができること。
- (12) 予約端末で予約した場合、予約票をレシート用紙に印刷できること。なお、レシート用紙に記載する内容や様式は別途指定する。
- (13) 予約端末は特定の操作しかできないものとし、悪意ある第三者がパソコンに侵入できないセキュリティ対策を施すこと。

5. 管理端末の機能と管理

- (1) 職員用に管理機能を有する端末1式を設置すること。
- (2) 管理端末では、利用者の予約の削除、予約票レシートの再発行ができること。
- (3) 管理端末では、予約中、空席など各座席の利用状況を一覧で確認できるほか、各座席の急な故障時には、利用不可とするなどの対応が可能なこと。

- (4) 利用者が退席処理をしないまま退席した場合、管理端末から予約時間・貸出カードの番号を表示し、利用終了の状態にできる仕組みを有すること。
- (5) イレギュラー対応のため、管理端末では特定の管理権限をもつ職員により、利用者の代行予約や最大利用回数や最大利用時間数を越えた予約ができること。
- (6) 座席名称やコーナー名称は、管理端末から変更することができること。
- (7) 利用者向け PC 端末対応など、新しくコーナーを追加する場合は、コーナーごとに、曜日別もしくは日別の利用可能時間を設定できること。
- (8) 職員がカレンダーから開閉館時間に変更になる日を事前に数か月先まで設定しておくことができ、設定した内容は確認できること。
- (9) 予約票レシートに図書館側が自由に使えるメッセージエリアを用意し、メッセージ文言は管理端末から変更できること。
- (10) 利用統計としてそれぞれブース及び座席ごとに利用回数・延べ利用時間・時間帯別の利用回数・利用時間などの数値を CSV 出力できること。また、期間設定することで、その期間の集計数値も CSV 出力できること。

6. 未来日仮予約機能

- (1) 未来日の座席の空席状況を確認できること。
- (2) 貸出カード番号を入力の上、座席予約状況の確認と、当日の所定の時間以降及び未来日の座席仮予約が可能なこと。
- (3) 管理端末にて未来日の予約可能期間が設定可能なこと。
- (4) 仮予約の確認画面から、予約取消も可能なこと。
- (5) 仮予約した利用者は、来館して、予約した利用開始時間の前、所定の時間までに予約端末から本予約を行うことで利用可能とすること。
- (6) 所定の時間までに本予約がない場合は、予約が自動的にキャンセルされ、該当の座席は次の利用者に割り当たること。
- (7) 自動キャンセルとなった貸出カード番号を記録できること。
- (8) インターネット経由で仮予約できる座席、できない座席をあらかじめ指定できること。
- (9) パソコン用サイト、スマートフォン及びタブレット用サイトの構築にあたって、下記のものについて動作環境を確認すること。なお、動作環境の確認はシステム導入時の最新版を確認環境とする。

Internet Explorer

Microsoft Edge

Safari

Google Chrome